

## 「JRE 酒田風力発電所更新計画 環境影響評価準備書」に対する意見書

令和4年3月7日 提出

項目	記入欄
氏名	1 日本野鳥の会山形県支部 支部長 築川 堅治 2 公益財団法人 日本野鳥の会 理事長 遠藤 孝一
住所	1 〒994-0081 山形県天童市南小畑 4-8-33 2 〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
環境影響評価準備書についての環境の保全の見地からの意見	<p>この度、貴社が作成された「JRE 酒田風力発電所更新計画 環境影響評価準備書」について、下記の通り意見を提出します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>(1) 現在、貴社が風力発電所更新計画に係る環境影響評価準備書（以下、準備書と言う）を縦覧している JRE 酒田風力発電所更新計画について、事業実施区域に風力発電施設（以下、風車という）を建設した場合、事業実施区域は様々な鳥類の渡りのコースと重なっていることから、風車の全高がこれまでより高くなり、ローター直径および回転域の面積もより大きくなることで、バードストライクの可能性が高くなると考える。準備書では、調査、予測及び評価結果の概要の中で、「ブレード等への接触については、風力発電施設による鳥類群集の年間衝突例数の予測を行った。これらの結果から、新設風力発電機は既設風力発電機に比べ、衝突数は増加すると予測される。しかし、バードストライク対策として、ブレードの彩色等を行うこと、また、風力発電機周辺には迂回可能な空間が確保されていることから、鳥類群集のブレード等への接触による影響は低減できるものと予測される。」としている。しかし、バードストライク調査については、死骸の発見が困難という事で、事業実施区域周辺の密な樹林や草丈の高い密な草地、開放水面が調査範囲から除外されていることから、調査結果の数値は実際の発生状況とは大きく異なっていると考えられる。これまでバードストライク調査を行っていない密な樹林や解放水面などの場所についても死骸探索方法を検討し、より正確なデータを取得するために既設の風車が建っている間にきちんと事後調査と予測を行い、結果を公表することを強く求める。</p> <p>(2) 渡り鳥の調査については、1年ほどの調査期間で結果の集約・分析を行い評価結果を出しているが、渡り鳥の場合、1年では予測・評価のための情報が不足しているため、複数年にわたる調査が必要である。</p> <p>また、準備書に記載されているレーダー調査による昼夜別の飛翔通過状況の結果をみると、春の渡り期では、約95%が夜間に通過しており、秋の渡り期においても、夜間の通過割合が上回っている。バードストライクの低減策として、ブレードの彩色をあげているが、この夜間の通過状況をふまえると、視覚的効果による対策の効果はほとんど期待できないと考える。さらに新設の風車周辺の改変跡地に砂利を敷設する対策を講じているが、事業実施区域周辺を餌場としている猛禽類には有効かと思われるが、渡りで通過する猛禽類や他の鳥類には効果がないと考える。</p>

## 「JRE 酒田風力発電所更新計画 環境影響評価準備書」に対する意見書

項目	記入欄
環境影響評価準備書についての環境の保全の見地からの意見 (つづき)	<p>さらに、「風車周辺には迂回可能な空間が確保されていることから、ブレード等への接触による影響は低減できるものと考え。」と結論付けているが、どのような鳥種がどの飛行ルートをどの程度利用しているかを示す情報が不十分である。</p> <p>これらのことから、飛翔状況調査をさらに詳しく行い、十分な情報の収集に努め、渡り鳥の飛翔ルートへの障壁影響が発生しているかを予測・評価し、影響の発生が確認された場合は、それを取り除くように新たな風車配置計画を行うよう強く求める。</p> <p>貴社においては、風車の更新建設にあたって、鳥類の飛翔状況を的確に把握し、バードストライクや障壁影響などの鳥類への影響調査を適切に実施することで、地域の優れた自然環境と生物多様性が失われないよう確実な対応をとることを強く求める。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>